



# くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 阿部 正樹

編集担当者 大手 直樹

千吉良 啓介

## 第71回目のテーマは、「災害時におけるお薬手帳の重要性」です。

日本は、地形・地質・気象などの条件から、台風・豪雨・洪水・土砂災害・地震・津波・火山噴火などによる自然災害が発生しやすい国土となっています。本年1月1日、能登地方を震源とする震度7の地震が発生し、同地域を中心に多数の方々が被災され、今もなお多くの方が避難生活を余儀なくされています。今回は、災害時の薬剤師の役割やお薬手帳の重要性についてお話しします。災害時の備えについて改めて考えてみましょう。

### 災害時、避難所において薬剤師が行う主な活動

災害発生時に被災地の避難所において、主に被災者に対する医薬品の供給や衛生環境の向上などに関する活動を行います。

#### ● 患者さんが服用していた薬の割り出し

避難所では、これまでに服薬していた薬の名前や種類をはっきりと覚えていない患者さんもいます。薬剤師は、お薬手帳があればそこから情報を得たり、患者さんから病気や病状、薬の形状、服用時間などについて聞き出したりして、服用していた薬を特定していきます。

#### ● 医師へ処方内容の提案

災害時に使用できる医薬品は、平常時とは異なり種類や在庫が限定されます。そのため、医師は専門外の医薬品を使用しないといけない場面もあり、薬剤師は避難所にある薬で対応できるように、医師に対して処方内容を提案することもあります。

#### ● 薬の在庫管理

支援物資として届けられる薬を分類し、在庫管理を行います。薬ごとに在庫情報をまとめ、必要な薬が避難所に届くよう管理していきます。

#### ● 市販薬の配布・管理

医療用医薬品のみではなく、風邪薬や胃腸薬といった一般用医薬品（市販薬）やマスク、消毒液といった衛生材料などの管理も行います。

#### ● 消毒・衛生管理

消毒液を配り、使用方法の指導をしたり、共用スペースとなるトイレなどの掃除を行うなどして、衛生管理をすることもあります。ほかにも、井戸水などの水質検査や、避難所の空気中の二酸化炭素検査などを行う役割を担うケースもあります。

#### ● 健康管理や体調不良のサポート

医師や看護師をはじめとした医療従事者と連携して、地域の人々の健康管理や体調不良をサポートしたりする役割も担います。



## 災害時の備えとしてのお薬手帳

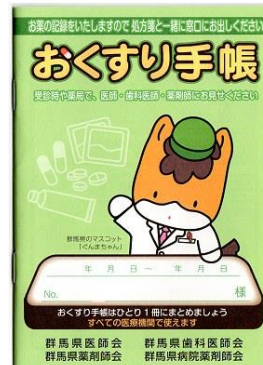
お薬手帳は、自分が服用している薬の種類や量、服用期間、アレルギーの有無などを記録した手帳です。災害時にお薬手帳を持っていれば、自分が普段どんな薬を飲んでいるかを、正確に伝えることができるため、重要な役割を果たします。

2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震といった災害時では、お薬手帳を携帯していた被災者には、適切な薬をスムーズに処方できたとの報告があります。

お薬手帳を見れば、過去に飲んでいた薬から病歴をうかがい知ることができますし、アレルギーや副作用経験の有無も分かります。

医師や薬剤師は、こうした情報をもとに、飲み合わせに問題がないかなどを判断し、適切な薬を出すことができます。

一方、お薬手帳を持っていなかった患者さんには、常用薬が分からず最適な薬を出すのが難しかったそうです。実際、被災者から「血圧の薬」と言われて処方したものの、普段飲んでいる薬と違ったため血圧が下がらなかった、などといった事例も報告されています。



## マイナポータルでの服薬履歴の確認

災害時にマイナンバーカードとスマートフォンを持って避難した場合は、スマートフォンからマイナポータルにログインすることにより、自分自身の過去の医療情報を確認することができるようになりました。これにより、避難所において、医療関係者に対し、普段飲んでいるお薬や特定健診データを共有することができます。しかし、災害で停電・通信不通となったエリアではマイナポータルは利用することができない欠点もありますので、やはり、おくすり手帳を持って避難することが必要といえます。ただし、能登半島地震では、急な発災で保険証やお薬手帳、マイナンバーカードなど医療に関する自己の情報を持ち出せず、着の身着のまま避難された方が多く、避難後の受診に支障が生じることが問題となりました。そのため、地震や津波の被害でマイナンバーカードを持参できない場合でも、オンライン資格確認等システムで特例的に医療情報の閲覧可能となるよう対応がとられました。保険証やマイナンバーカード、お薬手帳などを持って避難することが理想ですが、急な発災により、それができなかった場合は、第一に自分の身の安全を考えて避難してください。

## 平時からの備えについて

服用している薬（薬歴）を総合的に管理するため、各病院や保険薬局ごとに異なるお薬手帳を複数お持ちの方は、1冊にまとめましょう。

お薬手帳のコピーを非常持ち出し袋に入れることや、スマートフォンが使える方は電子お薬手帳を活用するなどして平時から備えることも有用です。

また、薬の袋や薬剤情報などを携帯で撮影し、家族などに送信して自分の情報を共有することも役立つでしょう。



- 《参考資料》
- ・日本薬剤師会. “薬剤師の役割”. 避難所において薬剤師が行う主な活動  
<https://www.nichiyaku.or.jp/kakaritsuke/role/index.html>
  - ・厚生労働省. “オンライン資格確認の導入について（医療機関・薬局、システムベンダ向け）”  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_08280.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08280.html)

**今回は、「バイオシミラー(バイオ後続品)について」をテーマに2024年6月発行予定です。**